

編集後記

編集委員を務めていると、研究成果と同じくらいに如何に読みやすい論文を書くことが重要なのかを改めて痛感します。せっかく素晴らしい成果を挙げても、論文を内容にふさわしい言葉で過小評価されることなく正確に理解してもらうように書くことは、決して簡単ではないからです。さらに日本人の場合は、長い歴史の中で育てられた「謙虚な姿勢」という文化の中にいるため、難解な文章で書かれた論文はつい「自分には容易に理解できない奥深い崇高な研究だ」と思いこむ傾向があります。これはかつての日本の教育にあった、教師と生徒の上下関係が明確だった封建的な体制の歴史にも関係しているのかもしれませんが、教壇の上から教師が話す言葉は如何に難解であろうとも、理解できないのは精進が足りない生徒の責任であり、教師が生徒に歩み寄ることは稀だったといえます。

しかし、例えば学会で平易な言葉使いでわかりやすい発表を行った場合、それが簡単で誰でも理解できるからといって決して「レベルの低い研究」ということにはなりません。またわかりやすい発表だからこそ欠点も伝わりやす

ので、そこを厳しく追及されることもあるでしょうが、研究に課題が残るのは当然のことですし、本当に優れた成果であれば多くの人にその価値は伝わると思います。一方で難解な言葉使いをする人の発表には質問も少ない傾向があります。質問が出ないのは研究が高尚だからではなく、発表者の意図がさっぱり聴衆に伝わっていないからだといえます。

つまり、論文執筆にあたって一番重要なのは、読者の立場に立って書くことではないでしょうか。どんなに素晴らしい成果も読者に理解されなければ意味がないからです。特に研究業界の人間は研究の意義とその成果について一般の方々に詳しく説明することも求められています。優れた成果を挙げるために鋭意努力することと同じくらいに、それをできるだけ多くの方々にわかりやすく伝える努力も必要なのでしょう。現代の学術論文において日本人が我々の文化の中で伝統的に守ってきた「謙虚な姿勢」とは、読者側がもつ姿勢ではなく、執筆者側がもつべき姿勢なのかもしれませんね。
(浦野 創)

プラズマ・核融合学会役員

会 長	二宮 博正	副 会 長	永津 雅章 (推薦委員長：研究助成)	小森 彰夫 (推薦委員長：学会賞)
常務理事	室賀 健夫 (総務委員長)			
理 事	安藤 晃 (企画委員長)	石原 修	上田 良夫	
	小野 靖	甲斐 俊也 (財務委員長)	草間 義紀 (広報委員長)	
	佐々木浩一	清水 克祐	白神 宏之 (支部・地区研究連絡会委員長)	
	白谷 正治 (研究部会連絡委員長)	豊田 浩孝 (編集委員長)	波多野雄治	
	福山 淳 (年会運営委員長)	米田 仁紀		
監 事	市村 真	中澤 一郎		

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディタ：豊田浩孝 (名大) 副委員長：米田仁紀 (電通大)

エディタ：安藤 晃 (東北大)、坂本瑞樹 (筑波大)、中村祐司 (京大)、長友英夫 (阪大)、小西哲之 (京大) 佐々木浩一 (北大)

編集委員：石澤明宏 (核融合研)、内田儀一郎 (阪大)、浦野 創 (原子力機構)、落合謙太郎 (原子力機構)、陰山 聡 (神戸大)、笠田竜太 (京大)、糟谷直宏 (九大)、加道雅孝 (原子力機構)、川崎仁晴 (佐世保高専)、柴田裕実 (阪大)、清水一男 (静岡大)、白石裕之 (大同大)、城崎知至 (広島大)、鈴木達也 (長岡技科大)、高橋俊樹 (群馬大)、徳沢季彦 (核融合研)、沼田龍介 (兵庫県立大)、長谷川純 (東工大)、林 信哉 (九大)、菱沼良光 (核融合研)、古川 勝 (鳥取大)、増井博一 (九工大)、松岡彩子 (JAXA)、宮澤順一 (核融合研)、森 芳孝 (光産業創成大学院大)、森本泰臣 (日揮)、山本 聡 (京大)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第90巻第9号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階

印刷 株式会社荒川印刷

一般社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

2014年 (平成26年) 9月25日

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: <http://www.jspf.or.jp/> 定価1,300円(税別)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人プラズマ・核融合学会が所有しています。